平成３０年度第１回　芦屋市立美術博物館協議会　会議録

日　　時	平成３０年１０月３０日（火）１０：００～１２：００
場　　所	北館４階　教育委員会室
出　席　者	会　長　蓑　豊 委　員　藪田　貫 委　員　石川　福美 委　員　若林　敬子 委　員　山本　理恵 委　員　杉島　厚仁 （欠席委員） 副会長　齋木　崇人 委　員　安部太一郎 （芦屋市立美術博物館指定管理者） 小学館集英社プロダクション共同体 株式会社小学館集英社プロダクション　関西パブリック事業課長　淺野　智恵 芦屋市立美術博物館　副館長　石井　茂 芦屋市立美術博物館　学芸員　清水　和彦 グローバルコミュニティ株式会社　青木　大介 （事務局） 社会教育部長　田中　徹 生涯学習課長　茶嶋　奈美 生涯学習課文化財係長　竹村　忠洋 生涯学習課　石田　直也 生涯学習課　森位　篤行
事　務　局	生涯学習課
会議の公開	■　公開
傍聴者数	０　人

１　会議次第

(1)　委嘱状交付

(2)　議題

１）平成２９年度事業報告について

２）次期指定管理者の指定について

３）その他

２　提出資料

芦屋市立美術博物館協議会　委員名簿

資料１　事業報告書抜粋（展覧会動員実績等）

資料２　芦屋市立美術博物館運営基本方針

資料３　芦屋市立美術博物館及び芦屋市立谷崎潤一郎記念館の指定管理者の候補者の選定経過について

３　審議経過

（蓑会長）

それでは，平成３０年度第１回美術博物館協議会を開催します。

議題（１）の「平成２９年度事業報告」について，事務局より説明をお願いします。

（事務局：竹村）

「平成２９年度事業報告」については，指定管理者の石井副館長と清水学芸員から説明させていただきます。

（石井副館長）

～　資料（２）に沿って年間スケジュール及び実績について，説明　～

（清水学芸員）

～　資料（２）に沿って各展覧会について，説明　～

（蓑会長）

何かご質問意見等ございませんでしょうか。

（杉島委員）

芦屋市展を２年に１回という事ですが，次の６５回に応募される作品というのは，新しい作品，２年間に制作された物ということでしょうか。

（清水学芸員）

おっしゃる通りで所謂，新作という事で，他の展覧会などに出品された物は除くとさせていただいております。また，制作期間を前回の芦屋市展の終了時から次の市展の募集時期までという事にさせていただいております。

（蓑会長）

他に何かございますか。最後にご質問いただいても問題ありませんので，次の議題（２）の「次期指定管理者の指定」について，事務局より説明をお願いします。

（事務局：竹村係長）
　～　資料（３）及び（４）を用いて説明　～

（蓑会長）
　ありがとうございました。ただいまのご説明で何かご質問，意見ございますか。

（若林委員）
　先ほど，ご説明の中にありましたが前回までの何度かの会議で，この美術博物館の運営基本方針を，この協議会の委員の皆さんで散々揉んで，考えたと思います。それがすっきりとした形で，ここに文章化されたと思っております。従来の方針から，集約されたわかりやすい文章になっておりまして，この協議会の意見が反映されたという事で，嬉しく思っております。
　順を追って少し質問をさせていただきたいのですが，指定管理者を選定する上で，３ページの採点表ですが，だいたいの項目で半分以上の点数をとっておられますけども，６番の谷崎潤一郎館の方の「事業運営３」，これが５点ということで，著しく低いと思います。これについて今後どうされるおつもりであるかということが一つ。一つ一つ，お答えいただいてもいいですか。

（小学館集英社プロダクション：浅野）
　残念ながら５点という点をだったのですけれども，ここに関しましては，実は，入札をする段階では，情報公開とか，谷崎潤一郎記念館様の方で，どのような資料をお持ちで，どのように管理をされるかというような事を直接お聞きすることができなかったので，知る限りでできる形で書かせて頂いたのですけれど，その点につきましては，かなり具体性はかけていたのかなと思います。これから谷崎潤一郎記念館の学芸員とも連携させていただきまして，どのように保存していくか，どのように研究していくかというところは引き続き十分に検討させていただきまして，今のレベルと変わらないぐらいには持っていきたいと考えています。

（蓑会長）
　質問ですが，現在の谷崎潤一郎記念館の指定管理者には武庫川女子大学が入っていますが，武庫川女子大学の学生たちが，色んな資料とかを今までは研究，勉強していたんですか。

（事務局：竹村係長）
　もしかしたら，かつてはあったのかもしれませんが，副館長を務めていらっしゃるたつみ都志先生も大学を辞められてだいぶ経っておられますので，今は，武庫川女子大の学生さんが直接谷崎記念館の方に来るという事はないと思います。

（蓑会長）
　資料は谷崎潤一郎記念館に全部入っているのですか。

（事務局：竹村係長）
　はい。

（蓑会長）
私自身，まだ入ったことないので，どのようにして保管しているのか。非常に難しいじゃないですか，紙というのは。それもしっかりしとかないと将来大変ですよ。それと谷崎の親族との関係とか，それも色々あるんじゃないですか。個人的に資料を持っているかもわからないしね。

（事務局：竹村係長）
はい。そうですね。

（蓑会長）
私もお孫さんとはすごく仲良いんですけども，おじいちゃんからもらった素晴らしい手紙も，そちらに入ると良いなと思って。孫だからひらがなで書いてあるんですよ。漢字じゃなくて。それがすごい良い文章なので，ああいうのをこういう所に収めてもらえると。

（若林委員）
この前，娘さんへの手紙というのも新聞に載っていましたけど，作家のそういう家族へ見せる顔というのが，人となりがわかります。

（蓑会長）
谷崎はごっついイメージがあるけど，そういった手紙は，本当に優しいおじいちゃんという感じです。そういったものも将来，谷崎潤一郎記念館に。それは交渉して，なんとかして頂けるといいですね。

（事務局：竹村係長）
谷崎潤一郎記念館は文学館ですが，収蔵庫は博物館や美術館の収納庫とまったく同じ構造をしておりまして，２４時間空調です。もちろん学芸員も今２名いまして，谷崎文学の専門の方が学芸員として勤務しています。

（蓑会長）
それはアポを取れば，見せることができるのですか。

（事務局：竹村係長）
博物館，美術館と同じ対応ということになります。

（蓑会長）
谷崎って，私もアメリカ長かったけど，すごい人気作家だから，学生を含めてたくさん研究している人がアメリカに限らず，ヨーロッパもいっぱいいると思うんです。そういった人たちが来て，研究できる体制ができているのかどうかも，これから将来すごく気になっている所です。

（事務局：竹村係長）
谷崎の最初の奥さんのお孫さんにあたられる竹田長男様に開館の時から名誉館長になっていた

だいておりまして。
　元々，谷崎潤一郎記念館の設立経緯が，三番目の奥様の松子さんからの寄贈というのが，一番大きく，その後もご遺族の方とは交流があります。先ほどおっしゃったように，たくさん資料もお持ちです。

（蓑会長）
　手紙をおじいちゃんからもらった，そういうのがすごく貴重なんで。普通の原稿じゃないから。やっぱりパーソナリティを知る上で，非常に大事な資料だと思います。

（事務局：竹村係長）
　今後の課題としまして，中央公論新社が，谷崎の直筆原稿など重要な資料をたくさんお持ちで，今は指定管理者に入っておられるので，スムーズに展示用に貸し借りや寄託ができていました。その辺りがどうなっていくのかが，今後の課題になっています。

（蓑会長）
　はい。他に何かありますか。

（若林委員）
　６ページに１階ロビーの話が出てきます。この協議会に参加させて頂いた時から，他のイベントをホールを使ってやってみられたらどうかという事を発言させていただきました。過去に結婚式をされた事があるんですが，１回きりで，それはちょっと使用目的が違うだろうという事で，以後行われてないのですが，そういう事も今後考えてみたらどうかと思います。より皆さんが美術博物館に足を運ばれる機会をたくさん作るという事が，必要なんじゃないかなと。結婚式とか，ちょっとした舞台とか，そういうことをしてみたらどうかなといまだに思っております。それから７ページですが，１番の所で，「芦屋ならではの」「芦屋だからこそできる」と続いていますが，例えばここで「どんな？」という疑問が湧いて参りました。「まだ知られていない新しい芦屋」ってなんでしょうという所。それから指摘ばかりじゃなくて，２番の所の下の項目ですけれども，最後に「続けます」と言い切っていらっしゃる所が，たいへん意志を感じた所です。それから３番ですけれども，最後から２行目の所に「新たな切り口で」とありますけれども，谷崎の愛好者というのがね，どれだけいらっしゃるのかなというのが，ちょっと私としたら，疑問に思います。どんどん古色化しているんじゃないかなと思うんですよ。で，単なる継承ではなくて，若い世代にどのようなアプローチをしていくかという事が，今後大切というか，そういう視点からもやって頂きたいと思います。たくさん名作ありますけれども。

（蓑会長）
　それは良い。アンケート取ったら面白いんですよ。谷崎潤一郎を知っているか，知らないか。文学を好きな人はずっと継承していくだろうけど，一般の人にとっては，もう関係ないとなっていくのが，ちょっと悲しい。

（若林委員）

でも，先日このチラシにあるように，「ＩＮ_ＥＩ　ＲＡＩＳＡＮ」という映画をされていました。私これ是非観に行きたいと思っていたんですけど，予約が必要であったので，当日満員になっていますと断られたんです。そのくらい人は呼べるんですよね。それだけ興味を持ってらっしゃる方がまだまだいらっしゃるという事で，私はこの映画是非また観たいと思っていますので，再度上映して頂きたいと思っております。それから，４番ですけれども，「環境にも配慮した」とありますが，具体的にどういう事でしょうか。それから，８ページですけれども，表中に，各体制が何名と書かれていますけれども，統括責任者という事で，館長となっていますよね。どう考えていらっしゃいますでしょうか。

（小学館集英社プロダクション：浅野）

７ページ目の「新しい芦屋だからこそ出来る」という事は，意味合いといたしましては，具体美術発祥の地という事もありますし，あと阪神間モダニズム発祥の地という意味合いも非常に大きい地であるという風に理解しております。この度，歴史と美術，それにプラスして，文学も一体化運営されることによって，別々に新しい文化を発展させるのではなく，融合させたり，それを使って新しい見方であったり，新しい角度から芦屋の文化を見ていきたいという思いを込めて，こちらの文章を作らせていただいております。あと，３番目の今までの利用者を大切にしつつという所は，谷崎潤一郎記念館は，私ども隣の館でずっと一緒に，仲良く交流もさせていただきながら，運営をさせていただいておりましたので，いらっしゃる方たちにつきましてもよく見ておりました。非常に熱烈なファンもいらっしゃるという事も，よく存じあげておりますので，いきなり初年度からまったく違う運営をしますというような事ではなく，今までの利用者様も大切にしつつ，私ども小学館集英社プロダクションは子どものための教育と文学，小学館としての文学の発展という事もありますので，新たに子どものための文学の継承をしていきたい，芦屋の暮らしと文化，芦屋のそういった新しいモダンな文化を継承したような文学などを，次世代に継承していくようなイベントであったり，展示であったりをしていきたいと考えてこのような書きぶりにさせていただきました。４番目につきましては，環境にも配慮したというのは，水光熱費を効率的に運営していきますと，そういった事も配慮して，運営してまいりますという意味合いになっております。

次の総括責任者兼館長について，廣瀬現館長は，今回は館長というお立場ではなく，今の石井が事務局長兼ねて統括責任者，館長という形で，出来るように運営体制を検討しております。廣瀬館長に関しましては，アドバイザーであったり，何かご意見をいただいたり，そういったことで引き続き管理運営に携わっていただければと思っておりますが，実務としては石井に移行させていただこうという風に考えております。

（蓑会長）

一つ私から，この美術博物館，小学館集英社プロダクション共同体さんから館長を出すというのは，ちょっと私としては腑に落ちない。やっぱり館の顔なんですから，きちんとした人が館長で，と私は思います。あと，他に何かご意見はありますか。

（若林委員）

子どもたちに向けてのプロジェクトというのをたくさん今回意識されているというのが１０ページの，これも前年度の意見の中で出ましたキャプションの文字とか，ルビをふるとか，その辺の

意見を反映させてくださっているので，たいへん嬉しいなって思いました。それを受けまして，子どもたちへのアプローチですが，確かに昔の暮らしぶりを勉強するのは，大切ですけれども，やはりこれからを生きる子供たちに芦屋の将来とか，未来とか，そういう風なところの視点も取り入れたような事もされてみてはどうかなという風に思います。それで１０ページのところはこの協議会のご意見を入れていただいて，反映していただいて，時間をとって皆で議論した効果があったなという風に思います。最後ですけれども，イベントでこんなことやったらどうですかという事をお話させていただいた時に，闇の中の焔の美しさというか，そういう事をアプローチするために薪能なんかを美術博物館のお庭を利用して，能楽の舞台とは全然違いますけれども，そういう事もやったら面白いんじゃないかという事もまだ依然考えております。

（蓑会長）
ちょっと火を燃やすのは危ないと思うよ。それは，問題が起きると思います。

（若林委員）
そうですか。難しいですか。

（蓑会長）
広い所なら良いけれど。ここ住宅街ですから。

（若林委員）
あの庭も無理ですか。

（蓑会長）
ちょっと，難しいと思います。まあ火を使うのはちょっと。

（藪田委員）
消防署が許可しないと思います。あのスペースでは。

（蓑会長）
私も見たいですけど，ちょっと場所的に難しいと思う。

（小学館集英社プロダクション：浅野）
ただ，暗がりを美しい物にするというような夜のイベントとかもぜひ参考にさせていただきまして，検討させていただきたいと思っております。中でやるとか，検討していきます。

（蓑会長）
アートマーケットって僕も来たことあるんだけど，すごい賑わいじゃないですか。あれで入館者相当増えている。ああいう事をもっとやったら良いんじゃないですか。

（小学館集英社プロダクション：浅野）

先ほどの９ページでおっしゃられました芦屋の未来，将来を意識したものということで，本当にその通りだと思いますので，ぜひ参考にさせていただきまして，次回以降の企画にさせていただきます。

（若林委員）
ありがとうございます。

（薮田委員）
私から一つよろしいですか。先ほど若林さんが冒頭で，昨年度の大きな仕事として，基本方針が出来たとおっしゃられましたけど，それから言うと事業報告がまったくこの基本方針に沿った総括になっていませんね。所謂どこの博物館もやるやり方で総括している。この基本方針に合わして，総括していない。っていうふうには，言えるんじゃないでしょうか。例えば事業方針の所で１から５ありますけれども，展示部門とか，芦屋ゆかりの，展示部門の所はデータで出ておりますけれども，美術作品・歴史資料等の継承のところがどのデータに出ているのかがわからない。市民協働参画というのはどこを見たら分かるのか。子どもへの教育はどこに出てくるのか。という事を考えた時に，出ているのは，おそらく美術部門と学習機会の中の講演会，ワークショップは，数値に出ているけど，それ以外は，どの数値に，どこに反映されているのかまったくわからない。それから管理運営の所でも，多目的施設の運用は，どうなのか。あるいは，ミュージアムショップの充実にどう図るのか。あるいは障がい者に対する配慮という事もありますし，文化ゾーン活性化もどういうふうにされたのか。あるいは，インターネットについてどういう発信をしているのか。基本的にこの方針に沿ったやり方ではなくて，伝統的に美術館や博物館，私どもも含めたやり方で総括されているだけにすぎない。というのが，私，今年の総括の一番大きな問題点じゃないかと思います。いかかでしょうか。

（事務局：竹村係長）
今の点につきまして，今おっしゃっていただいて，本当にその通りだと思いました。やはりなかなか自分たちで気づけない所がありますので，今後は指定管理者と協力しまして，運営基本方針に沿う形で報告させていただきたいと思います。

（蓑会長）
昨年度の展覧会の動員数を見ていて，この「春ひらく一芦屋の宝物」は，私は驚いたんですけど，よく入っていると思ったんです。こういう物が，今まではあまりなかったので，すごく良かったと思って。普通神社行っても，見れない物ですから。それと，やはりよくわからないんですけど，なんかすごく具体美術に対する反応が難しいのかなと。入館者数があまりにも少ないんで，とても良い作品をお持ちなのに，広重に負けるというのは，ちょっと恥ずかしいなと思って。実は兵庫県立美術館はすごく良い物を，世界の具体美術の一番良い物を持っていると自負しますし，大阪に今度出来る美術館も吉原さんのコレクション約６００点から７００点近く持っています。ロデーズにスーラージュ美術館が出来ているんですけど，そこで，具体美術の展覧会をやって，まだ終わっておりませんけれど６万人以上来ています。この３０００人と聞いて，余りにショックを受けていますけれども。もっともっと来ると思うんです。もうフランスでは大変な，人口３万人もいないこの町

でも，それだけの人が来ますから。しかも外国の具体美術，現代アートにこれだけ入るという，それで地元の芦屋でこれだけしか入らないというのは，寂しい気持ちもします。私も来年，山村コレクションを初めて全部見せようと思っているので，それで世界中からたくさんの人が来てくれるのを期待していますし，来年は京都で世界の美術館博物館協会の総会が日本で初めてあるんですけど，それを目的に３０００人以上外国人が来ますので，芦屋市立美術博物館でも，具体美術を並べてくれると有難いけど。９月１日から１週間大会があって，１日２日色んな所に旅行させようと思っているので，その中でこっちも連れて来ようと思うので，ぜひこの期間は，何か良い展覧会をしていてくれると有難いと思っています。私はまた具体美術が日本人，世界にも広まればいいなと思っております。

（事務局：竹村係長）
特別展とかについてのタイトル，特別展の展覧会名がありますけれども，私から見ていると，ちょっと分かりにくいかと思っています。例えば今回でしたら，「交差するアーティストたち―戦後の関西」という事で，チラシやポスターにつきましても，具体の作品というよりも，人が集まったような写真が載っていて，厳しい言い方をすると展覧会の内容が表現出来ていない。結局は何をやっているかわからないから，集客に繋がっていないのがあるのかなと。

（蓑会長）
例えばね，この間プラド美術館展で「美の無敵艦隊」とかね，そうすると，やっぱり見て行きたいなと思う。それから，怖い絵展の時も，なんでもない「どうして？」という言葉だけなんですよ。まあそういう事がやっぱり「あっ，なんだろう」という事で行く訳で，なんかこう期待するようなワクワクするような名前をつけないと。もう長い文章誰も読めないから，本当に短くて，何か魅力のあるタイトルをつけると，ガラっと変わると思いますよ。何だろうという気持ちで，来させないと。あまりにはっきりと学芸員が考えると，悪くはないんだけど一般の人には何も通じない。そういうのをこれからもっともっと変えていってほしいと思いますけれど。

（薮田委員）
そういうのでも具体的にどう変えていくか。やっぱり蓑会長の県立美術館と，私の県立歴史博物館では，問題の立て方がかなり違う。だけど，おそらく一般の人たちは，そんなことはあまり気にしてない訳で，どちらの方がインパクトあるかという事が問題になる。しかも文学なんかになると，完全に作家優先で，作家の名前で行く訳ですよね。３つの要素的な事を１つで組織されるのだとすれば，それは逆に言うと，発想が豊かになるという訳なので，その辺で例えば歴史的な所に，文学的な発想を入れるとか，美術的な発想を入れるとかいうような事が出来る。我々みたいに組織別だと，なかなかそういう事が出来ない。１つの所がそれを管轄されるとなると，それが出来るはずなので，そのチャンスをどう活かしていかれるかということが大切だと私は思います。それを縦割り３つ別々にテーマを立てていくと，結局元と同じようになるので，せっかく指定管理が一元化した事の有利が活かされなくなる。そこはよく考えられた方がよいと思います。実際それがどういう結果になるか，なかなか難しいし，今年なんかはよく頑張っておられると思いますけれども，けれどそこに満足しないためには，どうしていくかというところが，最後の最後が難しい。
僕も学芸員の意見があるから，そこをどう調整するか，どの館でも課題があると思います。

（蓑会長）

そういうのも学芸員サイドも打破していかないと，我々は皆さんの大事な税金を使っている訳だから，たくさんの人に来てもらおうという意識を持たないと。自分たちのだけの物じゃないんだから，一般の人にも理解できるような一般の人が行きたいという事をまず第一条件として考えてほしい。あとは図録とかチラシとかで，自分の思いを書けば良い訳だから。それよりもまずどうしたら人が来るかという事を考えた企画をしていただきたい。せっかく谷崎記念館と一緒になる訳だから，面白い事が出来るんじゃないかと思うんだけど。私も５年間会長をさせていただいて，そして去年はよく人が入ったと思うし，これからももっともっと頑張っていただいて，やっぱり最後は１０万人は超えるような思いで，皆さん頑張ってほしいなと思います。あんまりお力になれなかったかもしれませんけど，私としては，良い勉強させて頂いたし，市の美術館，博物館として，芦屋市民に喜んでもらえる，せっかく芦屋という良いブランドを持っている訳だから，それを大いに使って，もっともっと人が来てくれるような美術博物館になって欲しい。それには何度も言うけど，やっぱり駅から来れるサインをもっとたくさん道に出せるような，わかりやすい，人が来れるような事を努力してほしいと思います。これは何度も言うけどなかなか改善されてないので，何が問題か，景観なのかわからないですけども。文化のあるまちづくりというのは，すごく大事ですから，子どもたちが来れるような美術博物館にしてほしい。子どもが美術博物館に来ることによって，絶対感性というのがすごく良くなります。それがやっぱり学校の成績にも絶対に繋がってきますよね。自分で言うのもおかしいけど，金沢２１世紀美術館，今年でちょうど１０年，金沢の町は絶対変わると僕は宣言して，助役までさせてもらって，そのおかげで，今石川県全部全国学力テスト１番になりました。１０年たって，それは子どもたちが，何度も何度も行っているからだと思うんです。美術館の楽しさを知った訳だから，それによって，やる気も出るし，ただ受験だけの勉強じゃなくって，夢も子どもたちにとって出来たと思うし，色んな事が出来た。それが感性なんですよ。芦屋の子どもたちがもっと美術博物館に来れるような事を是非やる事によって，芦屋の子どもたちの成績も伸びると思うので。それを信じて，「そんなん無理だよ」じゃなくって，皆さんが信じれば，必ず実現する訳だから。良い音楽を聞かす，良い映画を見せる，良い本を読ませる，これが感性なんですよ。それをこの美術博物館で，何か役に立てば，みんながサポートする，もっともっとみんなが寄付すると思いますよ。色々勝手な事ばかり言わせていただきましたけれど，私としてもこの美術博物館がもっとたくさん人が来るような施設になって欲しいと思って，６年間させてもらいましたし，また良いメンバーに恵まれましたし，指定管理者にも，一生懸命頑張っているのはよく分かっていますし，良い顔になってほしいなと，そういうつもりで指定管理者も頑張ってほしいと思います。どうも長い間ありがとうございました。是非素晴らしい美術博物館に。どうも本当にありがとうございました。

（事務局：竹村係長）

ありがとうございました。

そうしましたら，本日が蓑会長の方がこの６年間携わっていただきまして，任期はもう少しあるんですけども，この協議会の出席としましては，本日が最後という事で，先ほどご挨拶をいただきました。本日杉島委員も最後になりますので，一言ご挨拶いただきたいと思います。

（杉島委員）

市民委員ですけど，２年間短い間ですけど，参加させていただきまして，ありがとうございました。なかなか僕自身，皆さんの委員の方々の意見を聞かせていただいて，逆にすごく勉強になりました。本当にありがとうございました。本当に市民として，期待したい事は，先ほど若林委員がおっしゃいましたような美術博物館をもう少し，親しみのある企画みたいなものが，色々あったら良いなと。以前，この協議会の中でも話が出たと思うんですが，例えばホールの使用の仕方みたいな部分でも，例えば映画鑑賞であったりとか，音楽とのコラボレーションであったりとか，そのようなことを含めた企画をもっと増やしていただけたらなあと思います。これから市民として，美術博物館に足を運ばせて頂きますので，よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

（事務局：竹村係長）

杉島委員，２年間ありがとうございました。本当に蓑会長は６年間どうもありがとうございました。私もちょうどその頃係長になりまして，この協議会に来るようになったんですけども，６年間非常に勉強させていただきましたし，やはり当時指定管理が始まったばかりの頃はまだまだ色々な課題が残っている中で，この６年間でまだまだ課題はあるんですけど，入館者数も４５０００人に達するところまでいけましたし，本当にありがとうございました。本日，齋木副会長がご欠席という事になっておるんですけど，齋木副会長におかれましても，特に大学の先生という学校教育の現場から芦屋の子どもが，美術で将来作家になったり，あるいは心豊かな人間になっていくのか，論理的に説明いただきました。この６年間でそれを少しでも実践出来る形になっていたと思うんですけど，齋木副会長にも，ありがたく思っております。

そうしましたら本日少し時間早いですけど，この会を終了させていただきます。

今日は，どうもありがとうございました。